

# 「儲かる循環型林業」構築への一歩

## (株)ウッドワン・(株)フォレストワンと立地協定を締結

林業振興課林業振興係 ☎0824-73-1124



協定書に署名する木山市長と中本社長

### ●企業の概要●

#### (1) 株式会社ウッドワン

所在地 廿日市市木材港南1-1  
代表取締役社長 中本祐昌  
創業 昭和10年5月  
資本金 73億2497万円（令和4年3月31日現在）  
売上金 665億円（令和4年3月31日現在）  
総従業員数 1252人（令和4年3月31日現在）

事業の概要  
床、壁階段、ドア、収納システムなど、木質内装建材の製造・販売を行うほか、住宅設備機器などの販売や住宅等木質構造物の企画・設計を行う木質総合建材メーカーです。

無垢材では国内1位のシェアを誇り、全国に住宅部材を提供しています。

同社は、これまで外国産材を中心に利用していましたが、国産材の活用についても検討しており、本市との意見交換を重ねる中で、子会社である株式会社フォレストワンの工場を市内に建設することとなりました。

#### (2) 株式会社フォレストワン

所在地 廿日市市木材港南1-1  
代表取締役社長 中本祐昌  
創業 平成28年1月  
事業の概要

株式会社ウッドワンが100パーセント出資する子会社です。国産の原木の製材および販売を行っています。

県内で最大の森林面積を有する本市には、県内一の蓄積量を誇るヒノキなど、豊かな森林資源があります。この森林資源を有効活用しながら、次世代へ引き継いでいくため、市は「22世紀の庄原の森林づくりプラン」を策定し、目指すべき姿として「儲かる循環型林業」を掲げています。このたび、「儲かる循環型林業」構築への大きな一歩として、主に庄原産材の製材を行う工場を市内へ誘致するため、市は11月1日、株式会社ウッドワン・株式会社フォレストワンと立地協定を締結しました。

### ●協定の内容●

#### (1) 趣旨（協定の概要）

株式会社ウッドワン・株式会社フォレストワンが、市内で生産される木材を主として活用する工場を市内に建設し、林業振興と地域経済の発展を目指します。

#### (2) 効果

▼庄原産材を活用した商品開発や、庄原産材のブランド化を推進し、「儲かる循環型林業」が促進される。  
▼現在、多くが市外に出荷されている庄原産材が、市内で製材・活用されることで、運送経費が削減されるなど、森林所有者への利益還元が期待できる。  
▼雇用をはじめとした地域経済への効果が見込まれる。

### 国産材の価値向上を目指す

今回立地協定の締結ができ、ご縁をいただいたことに感謝しています。私たちは、これまでニュージランドの社有林で、30年周期での伐採、植林、育林、そしてまた伐採というサイクルを築き、環境を守りながら日本のお客様に商品をお届けしてきました。一方で、国産材は合板やバイオマス燃料といった、付加価値の少ない商品になっていきます。そこで、国産材を価値あるものとして活用していくため、庄原市に新しい工場を設置することとなりました。庄原産材と当社の品質で、ブランド化した商品を開発していきたいと考えています。これから、庄原の皆さんに木材を供給していただくこととなります。その木材を製材して商品を作ること、循環型の持続可能な地域産業の発展を目指してまいりますので、皆さんのご協力をお願いいたします。



(株)ウッドワン・(株)フォレストワン 代表取締役社長 中本祐昌さん

### 森林所有者への利益還元を期待

今回の協定締結により、国産材加工に実績のある株式会社フォレストワンが、庄原産のスギ・ヒノキを活用し、商品開発を行うこととなり、地域材の付加価値が高まることに期待を感じています。市内には、先人たちの努力によって作られてきた、豊富な森林資源が利用期を迎えています。市内に工場が誘致されたことは、雇用の創出だけでなく、新たなサプライチェーン（※）が構築され、地域材の集荷から製材・乾燥・加工までの流れの最適化が図られます。



森づくりアドバイザー 林業家 坂部廣和さん

林業・林産業は、流通産業と言われるくらい物流コストがかかっているため、このコストの削減につながり、森林所有者への利益の還元が促進されることと思います。これをきっかけに、市内の林業がさらに盛り上がることを期待しています。

### ●新工場の概要●

**工場名** 株式会社フォレストワン 庄原工場  
**建設場所** 県営庄原工業団地内(新庄町)立地面積 約2万6千平方メートル  
**延床面積** 約5400平方メートル  
**事業内容** 木材の製材・乾燥・加工など  
**総投資額** 約12億円  
**着工予定時期** 令和5年8月  
**操業開始予定時期** 令和6年4月

### ●これまでの取り組み●

**(1) 株式会社ウッドワンとの意見交換**  
市は、市内の森林資源の活用に取り組みため、平成27年から継続的に、株式会社ウッドワンと意見交換を行ってきました。

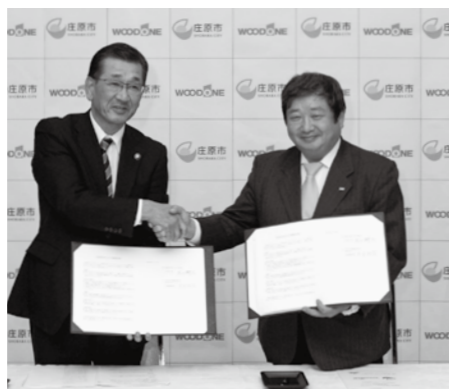
その中で、平成29・30年に同社を本市森林の現地視察に招いたほか、平成31年3月には木山市長が同社海外拠点工場と社有林を視察しました。

**(2) 連携協定の締結と研究会の設立**  
令和元年11月、市内における森林資源の循環利用サイクルの構築と、県内の木材産業の活性化を目的に同社と「庄原材活用のための連携協定」を締結しました。

また、庄原産材の用途・販売戦力に関することや、供給体制の構築について検討するため、同日「庄原材活用研

究会」を設立しました。研究会には、市と市外および森林・林業・木材産業関係機関（※）が参加しています。

- ※森林・林業・木材産業関係機関
- 甲奴郡森林組合
  - 備北森林組合
  - 西城町森林組合
  - 東城町森林組合
  - アサヒグループホールディングス株式会社
  - アサヒの森環境保全事務所
  - 土井木工株式会社
  - 一般財団法人広島県森林整備・農業振興財団



庄原材活用のための連携協定締結式 (令和元年)

### (3) 製材工場の誘致

市は、協定締結を契機に、豊富な森林資源を有効活用しながら次世代へと引き継いでいくため、「22世紀の庄原の森林プラン」を策定しました。このプランを基に、庄原産材を活用した商品の開発や庄原産材のブランド化の推進に加え、市内の森林から伐採される原木の流通コストの縮減に向け、同社と検討・協議を重ね、本協定の締結に至りました。

※サプライチェーン 製品の原材料調達から販売に至るまでの一連の流れ